



定期考査の勉強が、受験勉強につながります!!

中間考査に向けて

新学年が始まって、最初の定期考査の時期がきました。3年生の1学期の成績は、進路決定にとって、とても大事なものです。取りこぼしが無いように計画的に勉強をしましょう。また、1年生は、高校での初めての定期考査になります。高校での勉強は、中学校時代と進度や内容も大きく違ってきています。このため、中学校では点数が取れていた生徒が、高校では伸び悩み、成績を下げってしまう場合も見受けられます。最初の定期考査でつまづかないよう勉強にしっかりと取り組みましょう。

○ 中学での定期考査と高校での定期考査では、大きく違うことを理解しよう!!

1年生はようやく学校生活にも慣れてきた面があると思います。中学校時代は授業の中だけで理解できて、定期考査の勉強も特に時間を取らなくても、ある程度の成績を残せた生徒もいると思います。高校と中学校との大きな違いは、勉強しなければならない量が大きく増加し、内容も難しくなっていることです。

成績を向上させるためには、“中学校の時とは違い、高校では定期考査や勉強に対する意識や方法も変えていかなければならない”ということです。まずは、「高校の勉強は、時間が必要である」と理解し、自発的に勉強に対する行動を起こすように心がけることが必要です。

勉強のやる気は、勉強をやり始めてから徐々に上がってくるものです。誰かがやる気スイッチを入れてくれるわけでもありません。スイッチを入れるのは当然ながら自分自身です。毎日時間が来たら机に向かう、最初に得意教科を30分勉強するなど、勉強する習慣の工夫を始めていきましょう。

○ 必ず目標の点数や順位を決めて考査に臨もう!!

目的意識をしっかり持つことで、勉強に対する意識を高めることができ、やる気も維持できます。「勉強することはつまらない」「勉強はいくらやってもできるようにならないもの」と思っている生徒と「やればできるようになる」と思っている生徒では、どちらの方が成績の向上がみられるのかはわかりきっています。「やればできる!」と思えるようになるには、実際に「やったらできた!」という経験を積むことが大事です。小さな目標を設定し、達成することが勉強することの励みになります。

定期考査の勉強において、問題集、参考書、インターネットなどを活用し、自ら学び、自ら調べ、自ら解決できるようになると、勉強に対する抵抗も少なくなってきます。勉強方法も「ノートを読むだけ」「プリントを音読するだけ」「教科書をうつすだけ」の“覚えることだけを重視した”勉強ではなく、「問題集を解く」の“理解を深める”勉強方法を目指しましょう。問題集を解いて、わからないところが出てきたら参考書で調べたり、ノートを見返したり、プリントを確認したりして理解を深めていきます。問題形式の勉強を通して、できない部分をなくし、できる部分を増やしていきましょう。

○ 成績を上げるために問題に取り組み、知識の定着をはかろう!!

成績を上げるには、「定期考査で出題されそうな問題の数」に対して「できるようになった問題の数」がどれだけ増えるかで決まります。そのためにも授業ノートでの板書事項、重要事項等のメモ、例題の解き方を確認しましょう。復習することで「出題されそうな問題」の傾向もわかってきます。「できるようになった問題」とは、「出題されそうな問題」のうち、解答や解説を見ずに、自分で解けるようになった問題のことです。「解けるようになった問題」を増やしていくことが、知識の定着と増加につながり、成績の向上につながります。

“勉強すること” “学ぶこと” について

なぜ勉強しなければならないのか？ 学校の勉強は本当に役に立つのだろうか？ 「役に立つ」ってどういうことなのか？ を簡単にまとめてみました。三年間の高校生活において、向上心を持って学び続けることはなかなか大変なことです。意欲を持ち続けるためにも“勉強すること”の大切さを考えていきましょう。

1. 論理的思考力を養う。

すぐに勉強が役立つと思えることは、今でも日常生活の中で使っています。小学生の頃に勉強した引き算や割り算を使うことで、買い物の釣り銭の計算をしたり、お土産の食べ物を均等に分けることをしています。

時間において役に立つことは、ほとんどの教科で小・中学校で学んだことをもとに、高校で発展的な内容を学びます。小・中学校で、意味もよくわからないまま学んだことも、高校で関連した事柄を学び、初めて自分で納得した部分もあったと思います。各教科を三年間しっかりと学ぶことによって、きちんと筋道をたてて、論理的に物事を考えられるようになります。

2. 忍耐力を養う。

高校は好きな教科・得意な教科だけを勉強するものではありません。嫌いな教科・不得意な教科も一日の授業の中で学ばなければなりません。苦手な教科を簡単にあきらめて、成績を下げますか。それとも苦手な教科を粘り強く頑張って、成績を向上させますか。社会にでても、好きなことだけをやっ、生計をたてていける人はごく少数です。このことから自分がどの様にすべきかわかってくると思います。

3. 集中力を養う。

自分なりに答えを導きだそうとして問題に集中します。そのためには物事をやり抜こうとする意志も強く必要になってきます。学校の勉強を積み重ねることが、集中力を養う手段の一つです。

4. 自己調整力を養う。

当然ながら、気分が乗らない時や感情が高ぶって落ち着かない時もあります。そのような状態でも、学校に来て、授業を受け、家庭学習で課題をやり遂げる。このような日常生活を送っていこうとしているはずですが、勉強を続けることで、どのような場面であっても、安定して実力をだせる自己調整力を養うことができます。

5. 好奇心を養う。

学校の勉強は、新しいことや新しいものと向き合うことができます。様々な出来事に興味を持つことで、好奇心が養われます。すると、物事の変化に対しても敏感になれる。好奇心を養うことは、自分自身の成長にも役立ちます。

6. 学ぶ習慣を養う。

勉強してこなかった人が、いきなり何時間も勉強することはできません。また、必要とされる短時間だけ集中することも難しい場合があります。必要な時に必要な時間だけ学ぶことに集中できるのは、学ぶ習慣を身につけているからです。今日の時代は、「生涯学習」と言われ、大人になってからも学び続けることや学び直しが必要となってきています。学校の勉強は、学ぶ習慣を養うためにも大切になっています。

7. コミュニケーション能力を養う。

学校での勉強は、先生や友達とやりとりをしながら、学んでいくことも多いです。質問をしたり、意見を交換したり、発表したりといったことは日常的に行われています。このようなことを通して、発信力やコミュニケーション能力を向上させています。

8. 協調性を養う。

グループ学習では、相手の考えを理解したり、尊重したり、お互いに協力したり、補い合いながら学んでいきます。学習や活動を最適に進めるにはどうしたらいいのかを考え、実行するようにしています。このように必要な協調性を集団で勉強することで学んでいます。

このようにみえてくると、“勉強すること” “学ぶこと” の大切さや意味合いを理解できるのではないのでしょうか。学校の勉強の“役に立つ”ということは、その場ではすぐに感じられないかもしれませんが、時間が立った後で振り返ると強く実感できるものなのかもしれません。